

プログラム

資料展示 第2ギャラリー 6月26日(火)～7月1日(日)

小津家資料の他、小津安二郎の外祖父家である津市白山町南家城・岩脇家所蔵資料を展示し、小津監督の感性を育て、のちの名作の源流となった、彼を取り囲んだ親族がもっていた文化を紹介します。

映画上映 第3ギャラリー 定員 50名(当日先着順)、各上映日の午前10時から受付で整理券を配布します。

「父ありき」 6月26日(火) 午後1時～ 松竹 1942年(昭和17年)製作
「秋日和」 6月30日(土) 午後1時～ 松竹 1960年(昭和35年)製作
「彼岸花」 7月1日(日) 午後1時～ 松竹 1958年(昭和33年)製作

講演 第3ギャラリー 各講演とも映画上映後に開催します。定員はありません。

『「彼岸花」から「秋日和」まで－松竹大船撮影所時代』 6月30日(土) 映画上映後

講師：兼松 熙太郎 監督 聞き手：松浦 莞二 監督、宮本 明子 助教

撮影現場の一日、撮影の具体的な方法について、『秋日和』を中心にお話を伺います。

「世界がみた小津安二郎監督」 7月1日(日) 映画上映後 ※東京の田中監督との中継によりお話を伺います。

講師：田中 康義 監督 聞き手：松浦 莞二 監督、宮本 明子 助教

小津監督の人柄を感じられるやりとりをはじめとして、各作品の撮影秘話を伺います。

出演者紹介

兼松 熙太郎 監督 (日本映画撮影監督協会理事長、日本映画撮影監督協会撮影助手育成塾塾長)



昭和32年、松竹大船撮影所入社。小津安二郎監督『彼岸花』『お早よう』『秋日和』をはじめ、多数の劇映画、記録・PR映画の撮影に携わる。平成23年度文化庁映画功労賞、平成26年度日本映画テレビ技術協会栄誉賞受賞。

田中 康義 監督 (映画監督)



昭和30年、松竹大船撮影所演出助手室入社。『早春』『東京暮色』『彼岸花』助監督。監督を務めたドキュメント『小津と語る』は、ウィム・ヴェンダースやアキ・カウリスマキら、世界の映画監督に取材し、高い評価を得た。

松浦 莞二 監督 (映像作家・スタジオkk 共同代表)



主な作品に、世界十数カ国で上映された『鏡のなかの鏡』、2018年度米アカデミー賞短篇部門ノミネート対象『一月の手紙』。山内静夫、川又昂等への取材の他、「映画音響批評 小津安二郎の音を語る」(早稲田大学)、国際映画学会 SCMS (カナダ) でも講演を行う。

宮本 明子 助教 (同志社女子大学助教・日本映画研究)



映画台本、監督直筆ノート等も対象として映画の成立過程を再考する。2015年より、三菱財団、稲盛財団等助成により国内映画資料の保存・展開方法について調査を始める。『ユリイカ 総特集＝小津安二郎』他。

松阪市文化財センター (松阪市外五曲町1番地 TEL 0598-26-7330)

【アクセス】

- JR・近鉄松阪駅から
三重交通「松阪中央病院」行き 「文化会館」下車
鈴の音バス 市街地循環線「左回り」 「クラギ文化ホール」下車
タクシー利用 約10分
- 伊勢自動車道松阪インターから約10分

